

同志社大学

社会学部

Faculty of Social Studies



人と社会を 結ぶ。未来を編み上げる。

Contents

- 03 社会学科
- 07 社会福祉学科
- 11 メディア学科
- 15 産業関係学科
- 19 教育文化学科
- 23 充実したキャンパスライフ
- 25 学びの進化

探究心に応える社会学部の魅力

- ▶ 多様な学びを実現する副専攻制度
- ▶ 教室を出て社会を学ぶフィールドワークが充実
- ▶ 徹底した少人数教育で仲間・先生とともに学ぶ

諸君よ、人へ心を開け 新島 襄



人と社会の関係を幸せに導くため 次々と現れる社会問題を探求

keyword
01

「社会のしくみ」を知る

一見、個人の問題に見える出来事も、実は社会の動きと連動しています。社会学科では、私たち自身に影響を与える社会のしくみを学びます。

keyword
02

社会調査で「探求」する

社会学は理論だけでなく、調査で集めたデータをもとに社会の諸現象を分析します。社会調査はそのためのツールです。調査実習を通して社会学的想像力を培います。

keyword
03

「脱常識」で考えられる人に

現代では「問題を発見し、それを分析し、解決を図る」人材が求められています。社会学科の学びは多様な視点から「世の中」を理解し、社会の常識を見つめなおす能力を育てます。



Class introduction

代表的な授業



社会学概論

1年次生が社会学の全体像を知り、データの基本的な読み方を学べる導入科目。学生はあらかじめテキストを読んで出席し、授業では各自の研究発表を行う反転授業のスタイルをとっています。

教授 鵜飼 孝造



Curriculum

4年間の学び

1年次

- 入学式・新入生歓迎会
- 導入教育（ファーストイヤーセミナー）
- 理論と調査の入門科目履修

2年次

- 基礎演習の履修（社会学演習Ⅰ）
- 専門科目の履修開始

3年次

- ゼミ・卒業研究の開始（社会学演習Ⅱ）
- 社会調査実習

4年次

- ゼミ（社会学演習Ⅲ）
- 卒業論文
- 卒業式

※変更になる可能性があります。

教員の紹介



人々の豊かさを創造する 社会調査のプロを養成

右肩上がりの経済成長が望めなくなった時代、人々の生きる選択肢は、社会の新しいしくみを作ることによってこそ広がります。その意味で、社会学は、働き方や生活スタイル、コミュニティの多様なあり方について考察する、可能性の大きな学問。数

年前に、私が書いた「地方暮らしの幸福と若者」という本も、東京一極集中が進む中、地方で豊かに生きていくための必要な条件についての考察から始まったものです。学科の教育においては、社会調査のプロの養成を目指しています。「社会調査実習」という授業では、「ローカル志向の京都の若者」をテーマにし、学生たちと足繁く取材に出かけました。また、ゼミでは2年の時間をかけて、卒業論文という作品の完成を目指します。私の指導学生は、地域社会や若者研究に関するテーマを選ぶことが多く、全員が自ら現場取材やインタビューを行って得られた一次データが主役となる卒業論文を書いています。

准教授 轡田 竜蔵



Graduation thesis

卒業論文テーマ（一部紹介）

- 首里城はどのようにして沖縄の「シンボル」となったのか
- 音楽ストーリーミングの受容から見る脱作品化と受動選択社会
- 食卓の変化からみる家族団欒－チャブ台に注目して－
- アメカジファッションとアイデンティティ構造
- ディズニー作品における女性像の変化と社会のかかわり
- 訪日外国人観光客の増加からみる京都のゲストハウス事情

Student's Voice

就職内定者からのメッセージ



私たちの未来予想図



（株）毎日新聞社内定 4年次生 川畑 岳志

新聞を通して、一隅を照らしたい

社会学は、「社会のシーンで人がどう関わり、その関係はどういった構造の下にあると言えるかを探求する学問」だと思っています。シーンごとの現実を知り、いくつもの視点から事象を見直すと、違和感に気づいたり、ぼんやりとして言葉にならなかった事象が言葉になっていったりする面白さがあります。講義で社会問題の存在を知っていく中で私が選んだ就職先は新聞社です。自分の問題意識に従って、「日常」になってしまいがちな問題に目を向け、記事にすることで多くの人に伝えることが出

来る、また、自分の生きてきた人生のリアルだけでなく沢山の人生を知ることが出来る、記者という職業に惹かれました。社会学科では、一つの事象をそれ自体だけを見るのではなく、起こった環境、背景を知り、複数の視点を持って捉えることを学びました。現在、卒業論文執筆に向けてインタビューを実施していて、この経験は社会人になっても活かします。今思っている自分の目標は、「嫌いにしないでいられる自分である」「気持ちや言葉だけでなく行動でもって、自分の周りの人を大切にします」です。

主な就職実績

- 京都府
- 富士通(株)
- (株)朝日新聞社
- (株)京都銀行
- 国家公務員(総合職)総務省
- 阪急電鉄(株)
- 川崎重工業(株)
- 富士フイルムビジネスソリューション(株)
- 三井住友海上火災保険(株)
- (株)三菱UFJ銀行
- 大阪市
- アマゾンウェブサービスジャパン(株)
- (株)読売新聞
- (株)セブン-イレブン・ジャパン

様々な切り口で社会問題を探究し、豊かな〈社会学的想像力〉を養う

「社会学」(Sociology)を学ぶ社会学科。社会学の素養を培い、視野を広げます。社会調査の手法も身につけ、資格も取得できます。



グローバルからローカルまで、幅広く社会への見方を学ぶ

板垣 3人は私のゼミ生ですが、皆さんが社会学科に来られた動機は何ですか？

佐野 専門的なことを学ぶより、幅広い知識を得たいと思って社会学科を選びました。

石田 社会学は、民族や国家などマクロな視点から、家族や学校などミクロなことまで探求できて、両方の繋がりについても考察できると思い志望しました。身近なことから社会全体の大きな現象全般を考えられるというのが魅力的でした。

T.R 私は高校で国際問題について学び、大学で深めたいと思っていました。同志社大学にはグローバル地域文化学部がありますが、学びが言語や文化が中心となるので、それよりは国際的な社会問題などを学びたいと思い社会学部社会学科を選びました。

板垣 社会学は、社会に対する見方としての「理論」、社会の調べ方としての「方法」をバランスよく学ぶ学問。理論と方法がしっかりしていれば、どんな対象でも社会学ができます。それこそ、今、目の前にあるコップ1つからでも広げられる学びです。ですから、佐野さんの幅広く学びたいという思いはもちろん、石田さんのように身近なことから大きな社会問題まで学べると考えて社会学科を選ばれたのも良いと思います。また国際問題についても、国際関係論だと国と国の関係に絞られますが、国際的な人の移動や人種・民族など、個人や集団の動きを考えるには社会学が一番です。

佐野 そうですね。ただ、友人から「社会学は何を勉強するの？」って聞かれて困ったことがあり、卒業までに、何を身につけたらいいのか、模索しています。

板垣 ローカル、グローバルに関わらず、社会問題を自分の問題として考えられるようになる力、そして自分の問題を社会問題として考えられるようになる力、つまり「社会学的想像力」を身につけることがポイントです。

佐野 今、ゼミで京都五山送り火の「大文字保存会」の調査もしていますが、こうした小さなコミュニティのことも社会学のテーマとなるんですね。

板垣 そうです。社会学は19世紀に生まれた学問領域ですが、どんな社会にも通用する概念をたくさん生み出し、様々な調査方法を編み出してきました。いつでも、どこでも使えるのが社会学なんです。

佐野 どんな状況でも、自分と社会をつなげて考えられるようにするのが社会学なんです。

板垣 そう思うただければ。私自身は大学と大学院で文化人類学を専攻していました。社会学と文化人類学は兄弟のような関係。ヴァンオメン先生も文化人類学を専攻されていました。

T.R ヴァンオメン先生は、なぜ日本に来られたのですか？

ヴァンオメン 私はオランダ出身なのですが、高校生の頃に、日本の高校に留学し、初めて来日しました。そこでサッカー部に入ったのですが、種目は同じなのにオランダでのサッカーとの文化的・社会学的な役割の差があると気づき、さらに日本という国に興味を抱きました。帰国後、オランダのライデン大学で社会学的、文化人類学的視点から日本社会の研究を始め、「日本の部活動」をテーマに論文を書きました。その後、ハワイ大学大学院などを経て、日本に来ました。

T.R 高校生の頃から信念を持って学ばれているのがすごい。テーマも面白いですね。

理論と実践を交えながら社会調査を体験し、知識を深めていく

石田 板垣先生の「国際社会学」では、自分の社会への認識が塗り替えられたことが多くありました。国境をこえた関係を扱うなかで、たとえば産業社会とナショナリズムの関係といった考え方もできるのかと気づかされました。

板垣 「国際社会学」の視点は、一言で「トランスナショナルな関係性」と言っています。私たちは、無意識のうちに一つの国や国民ないし民族、つまり「ナショナル」な枠を前提にものを見てしまいがちです。ナショナルな枠を超えた関係のあり方を考えようとするのが「国際社会学」です。

佐野 在日コリアンの女性を描いたドキュメンタリー映画は印象に残りました。想像を絶する経験に接して、日本社会の問題として放っておけないと痛感しました。

板垣 トランスナショナルな関係性を考えるとき、抽象的な議論よりも、まず具体的に生々しい個人の経験をスタート地点にしたいということで、映像なども積極的に取り入れています。

T.R 私は、「家族社会学」の授業も印象的でした。家族は最も小さな社会と捉えて分析することで、家族の見え方も変わってきました。

板垣 「家族社会学」が開拓した理論はたくさんあります。例えば、父が外で稼ぎ、母が家事や子育てをする家族は、昔ながらのものに思えますが、日本では高度経済成長期に一般化したスタイル。伝統的なものではなく「近代家族」なんですね。ただ、男女の役割にボーダーがなくなるなどといった時代の流れで、家族の形も新たに変化してきています。

石田 データから時代の動きが分かるのも面白かったです。

ヴァンオメン 私は、日本の大学のゼミに興味があるんです。皆さん、どんな風に学んでいるのですか？

石田 社会調査実習と文献講読の2コマに分かれています。社会調査実習では、私たちは大文字保存会と朝鮮学校のつながりなどを調査し学びます。

文献講読では、「レイシズム」つまり人種差別に関する教科書を読んでいる、毎回その理論を学んでいます。

板垣 私のゼミでは、先ほど話してくれた「大文字保存会」と、そのそばにある朝鮮学校を対象に同時に調査してもらって、一見関係なさそうな両者の関係や伝統の保存について、皆さんにじっくり考えてもらっています。

T.R 社会調査実習の朝鮮学校については、先生や保護者の方にインタビューする機会もあって、知識も深まりいい経験になりました。

石田 朝鮮学校が地域のために様々な活動をして貢献しているなど、初めて知ることがたくさんありました。インタビュー方法や発信方法も学んで実践したので、将来にも役立ちそうです。

佐野 朝鮮学校を取りまく、人種差別や偏見なども知ることができました。文献講読で取り組んでいる「レイシズム」と内容がリンクしてきて、さらに学びが深まります。

ヴァンオメン 実践と理論を両立させながら学んでいるのですね。学期を超えて研究コミュニティができるゼミのシステムは、海外の大学ではあまりないことで、すごく興味深いです。

板垣 ゼミの語源はドイツ語の「ゼミナール」で、西欧由来の授業形態ですが、日本の大学の場合、独自に進化した形になっていますね。卒業生と話しても、大学時代の貴重な思い出となっているようなので、存在意義が大きいと思います。

ヴァンオメン ゼミについては文化人類学者としても、教員としても興味深く、私も関わっていきたいです。ゼミで社会調査もされているようですが、社会調査士の資格も取れると聞きました。

板垣 はい。社会調査士については、実習を含め、社会調査協会が認定した科目を履修することで、卒業時に取得できます。就職活動時に履歴書に「社会調査士取得見込み」として書けるので、興味がある方にはチャレンジしてもらいたいです。

柔軟に対応できる思考力と調査方法を身につけ、人生を豊かにする

T.R 社会学科は何でもテーマにできるから、例えば家族など、当たり前だと思っていたことに新しい視点を持てたことは良かったと思います。

石田 幅広く物事を見られるようになるよね。

佐野 まだまだ知識は浅いけれど、社会問題について改善方法などを考える意識もできました。

板垣 社会学科は国家資格を取ったりなど、手に職がつくところではありません。でも、大学は目先の実益のためにだけあるものではない。知識を広げ、どんなことにも応用できる思考力と方法を身につけておくことは、この流動的な現代社会ではむしろ必要なことです。今後の人生にどう繋がるか分からないのも楽しいことです。

ヴァンオメン 私は自分の経験から言っても、大学で学んだことで人生が豊かになったと思います。佐野さんが言われた、社会問題について改善方法を考えるようになったというのも、これまでの学びでたくさんのことに気づかれているからだと思います。

佐野 ありがとうございます。大学を選ぶ高校2～3年生の時期には、学びたいことは分からない人が多いと思うし、それなら社会学科への入学を考えていただければ。

T.R そう思います。私は、国際問題以外の社会学はあまり知りませんでした。入学後、ゼミもゼミ以外の授業も楽しくて、視野が広がっています。

石田 高校生の方には、大学にどんなゼミがあるか、どんな先生がいるかもよく調べてから大学選びをしてほしいです。大学生活の3～4年次はゼミ活動が中心なので。

板垣 そうですね。私はオープンキャンパスなどで模擬授業をするとき、高校生には、高校までの「社会科」のイメージで社会学を考えないでほしいと、いつも話しています。もし少しでも社会学科に関心を持つなら、どんな学問かをまず調べてから来てほしいです。とはいえ、大学は出会いの場ですから、何の気なしに、社会学に迷い込んでしまった人も大歓迎です(笑)。

佐野 私も幅広く学びたいと漠然とした思いで選びましたが、学びが充実しているので、どんな方でも学びやすいと思います。

ヴァンオメン 社会学を知ること、自分が知っている社会とは別の社会があることに気づけると思うし、自分の世界を豊かにできます。色々な経験をしに来ていただきたいですね。





Department of Social Welfare

社会福祉学科



グローバル化・少子高齢化に ふさわしい福祉社会のあり方を探求

keyword
01

実習などの体験型学習を通して実践力を養成
福祉現場での実習や学外プログラムなど体験型学習を通して、社会の課題を肌で感じるほか、獲得した知識と現実社会をつなげることができます。

keyword
02

少人数講座によるアクティブ・ラーニング
少人数の演習や実習では学生が主体となって議論ができるだけでなく、実習成果報告会の運営などを通して企画力やプレゼンテーション力も高められます。

keyword
03

人ひとりが大切にされる社会がどうすれば実現できるかを考える
「一人が大切にされる社会」の実現のために地域でのつながりや支え合いの可能性と支援が必要な人々を支える知識や方法のあり方を学びます。



Class introduction

代表的な授業



ソーシャルワーク基礎実習Ⅰ

社会福祉学において現場実践との関わりを抜きに語れません。1年次より、ソーシャルワーク基礎実習を必修科目とし、「講義」「演習」「実習」を連動させ、実践の学びとしての学問体系の修得を目指しています。

教授 野村 裕美



Curriculum

4年間の学び

1年次

- 入学式・新入生歓迎会
- 導入教育
(ファーストイヤーセミナー、社会福祉入門等)

2年次

- 社会福祉学基礎演習
- ソーシャルワーク基礎実習

3年次

- ゼミ開始
(社会福祉学専門演習)
- ソーシャルワーク専門実習

4年次

- ゼミ(社会福祉学専門演習)
- 卒業論文
- 卒業式

※変更になる可能性があります。

教員の紹介



「一人が大切にされる社会」 を実現するために学ぶ

社会福祉学とは、「人々の幸せとは何か?」「その実現のために必要なことは何か?」を考えて実践する学問。「一人が大切にされる社会」の実現のために、地域でのつながりや支え合いの可能性と、支援が必要な人々を支える知識や方法のあり方を学びます。それにより確かな思想と行動力を備えた社会福祉のプロフェッショナルである「ソーシャルワーカー」を養成します。私は同志社大学の伝統的科目である「社会問題論」を担当。様々な社会問題に目を向け、問題の根底にある原因や社会の歪みについて知り、問題意識を育む機会を学生に提供しています。ゼミでは「多文化ソーシャルワーク」や「マイノリティ」というテーマを軸にしています。日本の社会福祉制度や現場の学びを基盤としつつ、日本社会の多様性に加え、広い世界のソーシャルワーク実践や取り組みについて学んでほしいです。社会を変革し、社会と連帯するソーシャルワーカーを目指してみませんか。

准教授 マーサ メンセンディーク



Graduation thesis

卒業論文テーマ(一部紹介)

- 「新しい生活様式」で増加する社会的孤立の実態
- 感染症と人権～新型コロナウイルスを通して差別について考える
- 子どもの自立を支援する
－事前段階の虐待の防止と事後段階の社会的養護について－
- 医療ソーシャルワーカーによる代理意思決定者への支援
－認知症高齢患者のケースにおいて－
- 就労自立支援の課題と可能性
- 障害者差別と福祉教育
－福祉教育を軸に障害理解を広めるためには－

Student's Voice

就職内定者からのメッセージ



私たちの未来予想図



中野区役所内定 4年次生 佐久 歩

行政の福祉職で、信頼される職員を目指す

高齢者・障害福祉、虐待や貧困、子育てや社会的孤立、いじめ、引きこもりなど、現代社会の福祉問題の現実に向き合い、どんな支援ができるかを考え抜いた社会福祉学科での4年間。対人援助のスキルを身につける実践的ワークも行いながら、ソーシャルワーカーとしての技能や知識も身につけました。座学だけでなく、車いす体験や授業内でのロールプレイといった、体を動かして学べる授業があるほか、第一線で活躍する福祉職の方からお話を聞く機会や、実際に現場で業務を行う社会福祉実習などの

貴重な体験も。3年次に実施した社会福祉実習と4年次に実施した精神保健福祉実習では、教科書を読むだけでは気づけない発見や現場の空気、当事者の人柄など、実際に自分の目で見て、感じることで、人としても成長できました。社会福祉学科で学んだ様々な福祉分野に精通しているのが行政の仕事と考え、就職は出身地である東京の福祉職を選択。今後は、社会福祉士と精神保健福祉士の資格取得も視野に入れ、行政の精神保健福祉領域の起点となれるように努力していきたいです。



Basic information

基本情報

目指すことができる資格

- 中学校教諭一種(社会)
- 高等学校教諭一種(公民)
- 高等学校教諭一種(福祉)
- 図書館司書
- 学校図書館司書教諭
- 博物館学芸員
- 社会福祉士
- 精神保健福祉士

精神保健福祉士の資格取得に必要な演習・実習科目には学内選考を行うことがあるため、希望しても所定の科目を履修できない場合があります。また、精神保健福祉ソーシャルワーク実習の履修には、所定の科目を履修済みであることを条件にしています。近年の合格率の平均は、社会福祉国家試験66.9%(全国平均44.4%)、精神保健福祉国家試験93.8%(全国平均69.1%)と、両資格とも高い合格率を誇っています。4年次生では、毎週「福祉士受験対策勉強会」を開催し、国家資格の取得を支援しています。

入学定員

98名

過去の留学実績(派遣留学)

- アリゾナ大学(アメリカ)
- フィリピン大学 デリマン校(フィリピン)
- 香港中文大学(中国)
- 国立台湾大学(台湾)

主な就職実績

- 京都市
- (株)滋賀銀行
- エーザイ(株)
- 社会福祉法人京都府社会福祉協議会
- 社会福祉法人愛知県社会福祉協議会
- 阪急電鉄(株)
- 西日本電信電話(株)
- 日本生命保険相互会社
- 独立行政法人福祉医療機構
- 中部電力(株)
- 国家公務員(一般職)法務省
- 東京海上日動火災保険(株)
- 日本郵便(株)
- 住友生命保険相互会社
- 大阪府
- 数研出版(株)
- 大同生命保険(株)
- 積水ハウス(株)

歴史的な社会問題にも向き合い、未来の福祉社会を考える

根底にソーシャルワーカーとしての知識・技能の習得を据えつつ、様々な福祉問題をテーマとし 探求を進めます。



伝統ある同志社の社会福祉学のもと、幅広い知見を備える

安野 私はASL (American Sign Language) というアメリカの手話動画を見たこと、アフリカのろう者の手話の歴史を読んで福祉を学ぼうと思いました。同志社大学は社会福祉の教育機関として歴史が長く、留岡幸助氏など社会福祉貢献者を多数輩出していることも魅力でした。

鈴木 同志社大学の社会福祉の歴史は長くて、安野さんが挙げてくれた留岡氏など、大正・昭和時代に国内外で活躍した社会福祉リーダーも輩出してきています。

近藤 私は中学の時に、ストレステストを受けたり、カウンセラーと話したりという経験から人の心理に関心を抱き、いずれ支える側に回りたいと考えました。でも心理学より、社会福祉の範囲で心理を学びたいと思い、入学を希望しました。

廣野 同志社大学は心理学部もありますが、社会福祉学科でも支援の一環として、カウンセリングや心理学について学びます。心理学を学ぶためには、社会問題への知見も必要です。例えば、貧困家庭の子どもの支援するためには、カウンセリングも必要ですが、貧困という社会問題を知らないに対応できません。

安野 その話に通じると思うんですが、社会福祉学、心理学と、学びを体系的に区切るのは難しいと感じています。1、2年次に受けた授業では、今の社会福祉制度の体系に沿って、障害福祉、児童福祉、高齢者福祉と分かれていましたが、私は全て興味があったのでジレンマを感じました。だから、3年次に鈴木先生のゼミで、「福祉の当たり前を疑う」ということを教えていただいたときは目からウロコで、制度にとらわれずに福祉のあり方を見つめ、哲学や教育学などの考えも視野に入れながら、対話を重ねていくというやり方に共感を覚えました。

廣野 学びは全て繋がっているんです。例えば、経済学に無知では社会福祉が理解できないし、心理学のことを知らないで相談援助活動のことは語れない。年金財政が悪くなれば不況になり、失業が増えて自殺も増えるなど、様々な問題は社会の中で連鎖しています。学びを福祉に限定せず、幅広く研究していきたいと思います。

鈴木 そうですね。ただ、社会福祉学科が軸とするのは、社会福祉のあらゆる領域のソーシャルワーカーとしての知識・技能の習得。その基盤を持ちつつ、幅広く学んでほしいです。この学科では、社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験受験資格も取得できます。

安野 国際社会福祉実習や社会問題実習などの機会もあり、私も海外研修に参加させていただき、様々な知見を得られました。先生にお聞きしたいのですが、なぜ今、社会福祉を学ぶ必要があると思われますか？

廣野 人は1人では生きられないからだと私は考えます。社会福祉は一人ひとりが幸せに生きていくため、人と人の助け合いを研究する学問です。

安野 今だからというわけではなく、人間の根本的なことなのですね。

近藤 私は、今後の日本の社会福祉がどうなるかを先生に聞きたいです。今、福祉方面にもAIが導入されていますが、人と人の支援はどうなっていくのだろうと。

鈴木 機械化が進んでも、人間の辛い現実に向き合う力が支援に欠かせません。苦しみ寄り添い共に歩む勇気と人を信頼する力を備えた人間性を持つべきという点はずっと変わらないと思います。これは同志社教育の原点である「良心」を育む教育にも通じますね。

被爆者の研究、福祉の支援について。尽きない課題に向き合う日々

安野 私は長崎県出身で、高校時代から核兵器廃絶の署名集めなど、平和教育の活動をしており、多くの被爆者と出会ってきました。卒業論文は、「長崎における戦後被爆者の生活上の困難と生活戦術に関わる研究」をテーマに取り組んでいます。

鈴木 被爆者の方はずっと生活上の困難と戦ってこられたのに、これまで大学の社会福祉でも学会でも、「被爆」は取り上げられてきませんでした。社会福祉はもちろん、人類学や社会学の見地からも、考えるべきものだと思います。安野さんは、当事者のもとに赴き、関係を作り、声を聞き取って、何を社会に訴求すべきか考えるという、独自の研究スタイルを築いていますね。

安野 授業で教わった社会福祉調査に加え、鈴木先生からライフヒストリーのことや質的調査の方法を教わったことで、自分なりに研究を進められています。今は、さらに研究を進め、戦後被爆者の生活のあり様を描き出したいと思っています。被爆者について、1945年の被爆の瞬間や当時の様子は語られたり、文章で残っていたりしますが、被爆から今に至るまでの生活や人生については、ほぼ記録に残っていないんです。私が話を聞いた被爆者達は人生の中で、社会的で政治的な出来事と関連する様々な困難に出会っています。例えば、女性の被爆者は結婚や出産のとき、被爆経験が重荷となるといった経験をしています。そうしたことを生活史として書き残し、伝えたいです。

廣野 素晴らしいです。現場に飛び込み人と関わる点では、近藤さんも独自の取り組みをしていますね。

近藤 私は児童福祉分野と教育に関心があり、学童保育でアルバイトをしています。現場に入ると、大学の学びが理想論だと感じることもあります。

廣野 血気盛んな意見だ(笑)。でも、同志社大学創設者の新島襄も、このくらい気概がある学生を歓迎していたし、いいと思います。

近藤 中学時代から、児童福祉の支援などをしていました。今は、ソーシャルワークに少し関わり、病院の付き添いなども経験したのですが、思っていた以上にハードで、今後どのように学ぶか迷っています。先生にお聞きしたいのですが、支援する側が当事者意識を持ちすぎると感情移入しすぎて巻き込まれていきませんか？ 寄り添い方がわからなくなることがあります。

鈴木 感情移入も大事だけれども、少し距離をとって、その苦しみに対してどうやってアプローチすべきかを冷静に見ることが大切ですね。

安野 近藤さんと同じような経験が、私もあります。友達が精神的に不安定になったときに相談を受け、自分も辛くなってしまったことがありました。でも、共感することを「相手の靴を履く」と英語で表現するけど、履いた後はその靴を脱いで自分の靴を履くことが大事だと、社会福祉実習の実習中、現場の方に教えてもらって、まずは自分自身を大切にしないといけないと知りました。

鈴木 同志社大学には「一人一人大切に」という新島の言葉のもと、一人ひとりが大事にされるという背景がある。自分を大切にしつつ支援するという考えにも、通じますね。

学生時代の学びから広がる夢、世界へと目を向けて

近藤 私は小学生の頃にイギリスとドイツで生活していたのですが、日本に帰国して小学校に入ったとき、学校がつまらないと感じて、学校教育に違和感を抱いたことがあります。その思いもあって、知り合いが立ち上げたフリースクールに携わって学んでいます。子どもたちが自然の中でたっぷり遊んだり、ディスカッションしたりという学びの形を取っているユニークなスクールです。この経験をもとに、新しい教育の形を打ち出したいです。

安野 具体的にやりたいことってあるんですか？

近藤 今は大学受験に向けて中学からの教育がありますけど、それ自体を変えたいと思っています。私のように、学校がつまらないと感じた子どものため、楽しい教育現場を提供できたらいいなと…。

安野 すごく素敵だと思います。

廣野 スケールの大きい夢ですが、同志社の学生らしくて、我々の誇りですね。

安野 私は卒業後、同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻に進みます。前期課程1年次の秋学期から「同志社新島スカラー」派遣留学生としてアメリカのアーモスト大学に3年次編入予定です。アメリカの社会問題や日本との文化的・制度的な違いも見つ、人類学や社会学の理論・方法論の基礎的研究に力を入れたいです。併行して、長崎の被爆者の生活史研究も進めています。

廣野 平和教育の活動も続けるんですね。

安野 はい。平和教育については大学4年間で活動を広げ、今は真珠湾攻撃を経験したハワイと被爆を経験した長崎をつなげる働きかけをしています。戦争という文脈の中で悲惨な経験をした人々を連携することを目標とした交流をしていて、オンラインで被爆者の話を聞く機会を設けるなど、総合学習講義を行ってきたので、今後も続けたいです。

鈴木 様々な経験を活かし、ぜひ世界に羽ばたいてください。私も大学卒業後、パレスチナ難民キャンプ支援のため、現地に滞在した経験があります。近藤さんも帰国子女として、海外と日本の教育の違いに衝撃を受けたようですが、日本という枠組み内からは見えないことって多いです。ぜひ、文化圏や社会背景が違う人ともふれあって学びを深めてほしいです。お二人とも、今の研究を大切に、色々な角度から既存の枠組みを壊す人になり、夢を叶えてください。

近藤 はい。実現していきたいです。

安野 グローバルでマクロな視点から日本を捉えることを意識しつつ、前進していきます。





メディアが映し出す現実とは何か？ メディアの現状や問題を探求

keyword
01

情報社会、インターネット、スマートフォン、SNS
私たちはインターネット、スマートフォンが普及した情報社会に生きています。メディアが社会に与えた影響を歴史学や心理学、文化人類学などの観点から検証します。

keyword
02

ジャーナリズム、フェイクニュース、ジェンダー
誰もが情報発信する「自由」を享受すると同時に、誤っていたり、ジェンダーの偏見などを助長したりするような情報が広まりやすい情報社会の課題を分析します。

keyword
03

マンガ、アニメ、広告、メディアリテラシー
マンガ、アニメ、広告、映画、ニュースなど、多様なメディア・コンテンツを分析してメディアリテラシーを高めることで、よりよいメディア文化の将来像を考えます。



Class introduction 代表的な授業



コミュニケーション論

見て、聞いて、話すほか、様々な形式の「コミュニケーション」が私たちの社会には存在します。そうした日常に溢れる営みを、社会学、メディア研究の知見を活かして捉え直し、理解を深めていきます。

助教 水出 幸輝

Curriculum 4年間の学び

1年次

- 入学式・新入生歓迎会
- 導入教育（ファーストイヤーセミナー、メディア学実習）
- ポスターセッション報告会

2年次

- メディア学基礎演習Ⅰ・Ⅱ
- 専門科目の履修開始

3年次

- ゼミ（メディア学演習）開始
- ゼミごとの合宿、他大学との交流など

4年次

- ゼミ（メディア学演習）
- 卒業論文
- 卒業式

※変更になる可能性があります。

Basic information 基本情報

目指すことができる資格

- 中学校教諭一種（社会）
- 学校図書館司書教諭
- 高等学校教諭一種（公民）
- 博物館学芸員
- 図書館司書

入学定員

88名

過去の留学実績（派遣留学）

- ・延世大学（韓国）
- ・ニュー・サウス・ウェールズ大学（オーストラリア）
- ・カリフォルニア大学（アメリカ）
- ・ウェスタンミシガン大学（アメリカ）
- ・メルボルン大学（オーストラリア）
- ・サラマンカ大学（スペイン）
- ・コロラド大学 ボルダー校（アメリカ）
- ・シンガポール・マネジメント大学（シンガポール）

教員の紹介



多様な観点から研究し メディアを理解する

講義ではメディア史、ジャーナリズム史を担当しています。いま私が取り組んでいる研究は、メディア業界出身の政治家である関和知について。明治から大正にかけての国会議員である関の伝記を書くことで、メディアと政治という2つのシステムを、人材供給という側面から明らかにする試みを行っています。彼の家は貧しく、苦労して教育を受け、自ら雑誌を立ち上げます。やがて、その雑誌を新聞社に成長させ、そこを出発点に政治家へと出世します。メディアが次へのステップになるというのは、現代にも通ずる現象だと思います。授業には、こうした最新の研究成果を盛り込んでいきます。メディア学に興味のある人は、コンテンツを取り巻く政治経済、社会の様子を忘れがちです。歴史的な視点で、距離をおいてみると、コンテンツの政治性や、経済的限界、社会問題との関わりが見えてきます。多様な観点からメディアを理解する手がかりを、この学科でつかんでください。

教授 河崎 吉紀

Graduation thesis 卒業論文テーマ（一部紹介）

- 現代における音楽雑誌の存在意義
ー音楽ファンが音楽雑誌に求めるものとは
- Netflix オリジナル映画における女性監督の増加とその要因
- メディアの報道量と各スポーツの関係
- 新聞社とポータルサイトのニュース分析
ーYahoo! ニュースの掲載状況から
- YouTube へのゲーム実況動画投稿におけるタイトル及びサムネイルと再生回数の関係
- メディア・コミュニケーションによる公共圏の可能性に関する考察

Student's Voice

就職内定者からのメッセージ

私たちの未来予想図



（株）バンダイナムコエンターテインメント内定 4年次生 濱野 瑠月

ゲームを通じて、全ての人間を幸せにする

メディア学科では、マスメディアを中心とした文化やそれが与える民衆や社会への影響を体系的に学びます。2年次に受講したジャーナリズム論では、ニュースの報道で起きたトラブルを学びつつ、ディスカッションを通じて理解を深められました。そして情報が人に与える影響や、それによって起きる事態を学ぶうちに、「自分の思いや、熱を最も人に届けることができる媒体とはなにか」と考えるようになりました。やがてゲームという媒体が与える双方向の体験が、人々の心を動かす

ことができると考え、ゲーム業界を志望するようになりました。内定先では自分が幼少期から親しんできたコンテンツを多く扱っており、直接携われることが楽しみの一つです。今後は自らのアイデアを言語化する能力を高め、様々なコンテンツを人々に届けられるプロデューサーを目指していきます。どのように効率よくアプローチすれば、人の心に影響を与えられるのか。メディア学科で学んだことを活かして、人に幸せを与えられるエンターテインメントを生み出したいと思っています。

主な就職実績

- 一般社団法人共同通信社
- (株)TBS テレビ
- (株)電通
- (株)中日新聞社
- 有限責任監査法人トーマツ
- 野村證券(株)
- 京セラ(株)
- 日本ハム(株)
- 明治安田生命保険相互会社
- (株)京都銀行
- サントリーホールディングス(株)
- 住友生命保険相互会社
- (株)報知新聞社
- 森永乳業(株)
- 日本銀行
- 中央出版(株)
- リコージャパン(株)
- (株)バンダイナムコエンターテインメント

メディアが映し出す情報を様々な角度から捉え、社会で生きる表現方法を追究

情報化社会において重要性を増すメディアについて学ぶメディア学科。SNSやオンラインの学びも含め、社会問題とメディアの関係についても学びます。



3年次生 梅谷 悠祐

教授 小黒 純

4年次生 梶田 葵衣

3年次生 佐藤 綾香

社会を動かすメディアの存在を学び、様々な場面で役立つ知見を広げる

上辻 私は、日常的に接するテレビ、新聞、ラジオ、ネットニュースなど、メディア全般に興味があり、メディア学科を志望しました。皆さんは？

梶田 理工学部がある京田辺市が地元で、同志社大学は身近な憧れの存在だったんです。その上、高校時代にはテレビ局で働きたいと思っていたので、メディアについての基礎知識や映像に触れられるメディア学科へ来ました。

佐藤 最初は、近現代の軍事史を学びたいと思っていました。でも、高校3年次に社会学部のパンフレットの中に、「M-1 グランプリが芸人に与える影響」という、メディア学科生の卒業論文を見つけ、衝撃を受けました。実はお笑い大好きなのですが、自分の趣味が学びになるとは思ってもみなくて、志望先をメディア学科へとガラッと変えました。

小黒 卒業論文のテーマが入学志望の動機になっているとは驚きですね。

佐藤 他にも人気アイドルのことをテーマにしている方もいて、幅広く勉強できそうだなと思ったんです。

梅谷 私は映像の分野に興味を持って、メディア学科を選びました。この学科は本当に様々なことを実践的に学べますよね。

梶田 そうですね。私は今4年次生で、来年春から社会人なので、メディア学科で学んだことを今後どう活用していけるのか、とても気になっています。

小黒 メディア学科では社会問題とメディアの関係や、メディアを通して文化を豊かにするための解決策を追究していきます。必ずしもメディア業界の企業に就職するための学びではありません。例えば営業職に就いたとしても、メディアを活用して情報発信する機会があるでしょう。その

場合、メディア全般を理解していれば、商品の販売企画をどのように打ち出すべきかを考えられるはずです。どんな分野で働くにしても、メディアと関連することは数多くあります。

梶田 なるほど、業界を問わず、メディアについての学びは役に立つ機会がありそうです。

佐藤 卒業生は様々な業界に進まれている中、メディア学科の在学生にはジャーナリスト志望者も少なくありません。ゼミでもジャーナリズムを学んでいます。今はニュースなどでも、SNSは外せないポイントなのでしょうか。

小黒 SNSがなかった時と全く違う世界になっていると考えた方がいいですね。ジャーナリズムの在り方は時代によって大きく変わっていきます。様々な人にニュースを目にしてもらうためにも、時代の流れに沿った新しいジャーナリズムの形を考えていくべきです。創造は新しい世代の役目なので皆さんに期待しています。

梅谷 マスコミ志望で記者として働きたいと思っています。先生はなぜ記者から大学の教員になられたんですか？

小黒 記者時代から大学生に教える機会があったんです。現場経験を活かして、ジャーナリズムを教えたいと思い、大学教員としての仕事が始まりました。記者として経験したことを、ゼミなどで活かし、学生には取材や編集の実務を積み重ねてもらえればと思います。

梅谷 記者としての仕事はもちろん、そこに伴う緊張感や責任感も疑似体験しながら学べるので、力になっていることを実感しています。

取材や編集、記事や映像制作。ジャーナリズムを体験しメディア学を追究

小黒 4人とも私のゼミに所属して、取材・編集・発信という実践中心の「超実践的プログラム」で学んでいます。どう感じていますか？

梅谷 現役の記者職の方とお話したり、実際のニュース記事制作に挑戦したりと、貴重な経験ができています。ファクトチェックの取り組みも、新たな発見の連続です。

小黒 ファクトチェックとは事実確認のこと。例えば、政治家の発言が正しいかどうかを徹底調査する。最近では、SNSでフェイク画像やデマが流れることも多く、ファクトチェックは欠かせません。ただ、調べて終わりではなく、記事にして、世の中に送り出すところまでが記者の活動です。

梅谷 はい。記事制作したとき、先生やニュースサイト「InFact」の編集部の方に、何度もチェックいただいて、記事を修正するという作業を繰り返し、たった1つの記事を作る難しさを痛感しています。

佐藤 私は熱海の土砂災害の記事に取り上げました。事故の原因がソーラーパネルの設置のせいではないかとSNSで情報が流れ、Google Earthなどを使い、ファクトチェックをしつつ作成しました。ただ、その記事は時期的に合わなくなってしまい、出すことができなかった…。

小黒 記事が出なかったことはやはり悔しかったですか？

佐藤 はい。でも、実際にメディア業界で働き出したらもっと高いハードルもあると思うので…。難しさを早く味わえて良かったと思っています。

小黒 4年次生は卒業論文にも取り組み始めていますね。

上辻 東京2020オリンピックの報道について、新聞社ごとの記事の内容比較を卒業論文のテーマにしようと思っています。様々な記事を集めてみると、五輪について1面で扱うものもあれば、社説で述べているものもあって、新聞社ごとにニュースの扱いがかなり違うんです。情報量の多さにも四苦八苦しています。

小黒 期間ごとに区切って記事を集め、成果が出そうなら続ける。難しそうなら立ち止まって考え直してみてもどうでしょうか。

上辻 ありがとうございます。新聞社ごとに論調が違うのも面白いと思うので、しっかり分析して卒業論文を仕上げたいです。

梶田 ゼミの一環で、大学近くのお店を取材して、インタビューして、映像制作をするなどしてきました。卒業論文では、ホラー映画を取り上げ、作品の中に出てくる風刺の要素から社会問題を見ていこうと、内容分析を始めているところです。

小黒 「ゼミのテーマは自分で自由に決めてください」と言っています。皆さんが好きなテーマを掘り下げているのはうれしいことです。卒業論文のために「オンライン自習室」や個別面談の機会を設け、一人ずつ丁寧に接しています。これから卒業論文に取り組む3年次生も、ぜひ個別指導の機会を利用してもらえたらと思います。

世に溢れる情報の見方を知り、未来に生きるための糧に

梶田 入学前と今では、テレビや雑誌のほか、ネット動画など、メディアに対する見方は変わりました。メディア学科で情報の流れやコンテンツの存在意義などを考えてきたからだと思います。フェイク画像やフェイクニュースの存在も知り、情報を簡単に鵜呑みにせず、自分で一旦考えてみるという姿勢も加わりました。

佐藤 梶田さんが触れたフェイク情報は、情報が溢れる現代社会だからこそ顕在化するものだと思います。受け取る側が情報の取捨選択をしなくてはいけないですね。

上辻 そういう意識を持てたのは、メディア学科で学んだからでしょう。この学科に入り、報道からサブカルチャーまで、幅広く学べたことも良かったと思います。

梅谷 メディア学科で学び、社会で生きるための知識が広がりました。ゼミでも、授業でも、取材や記事制作、映像制作など、実践的な経験を積んでいます。

小黒 体験しながら学ぶのは、自分ができることは何かに気付く、良い機会だと思います。皆さんはコロナ禍という稀有な時期を大学時代に過ごしました。そんな中で、オンラインで繋がってインタビューするなど、新しい体験もできていることを前向きに捉えてもらいたいです。

佐藤 はい。最近、小黒先生の授業で、韓国のソウルにいる学生と、東京にいるゲストと、そしてキャンパスとの3拠点をオンラインで繋ぎながら一緒に学ぶ機会がありました。好きな映画『ターミネーター』の中で、世界中の人が同じ授業を受けるシーンがあるのですが、それと同じだと感動してしまいました(笑)。社会は進化しているなあと。

小黒 かつてはあり得なかったことが現実になっているんですね。私自身、テクノロジーを駆使して、教育を進化させていきたいという思いがあり、皆さんがこれまで以上に有意義に学べればと思います。

佐藤 はい。新しい取り組みができるのは楽しいです。私自身は、この学科で人気マンガやテレビドラマの分析ができたことも印象的です。エンタメ系を始め、自分が好きなことに打ち込める学科ですね。

梅谷 記者を目指す私にとっては、身になる学びが充実している学科です。今、高校生でジャーナリズムに関心があるなら、ぜひ入学を視野に入れてもらいたいです。

上辻 ファクトチェックの一環で、新聞社に情報源確認をしたり、米国のNASAに英文メールを送ったりするなど、高校生の時には考えられないような体験ができました。社会人の一歩を踏み出す前の学びの場としてもおすすめです。

梶田 趣味や好きなことがない人にも、この学科で学ぶことをおすすめしたいです。学びながら探してもいいんじゃないかなと。

小黒 そうですね。メディア学科では、学生が自由にテーマを見つけ、自分で学びのプランを立てて進めます。その中で迷いや悩みを感じる場合は、教員がサポートしていきます。自分の道を自分で決めて歩いていく。その第一歩にふさわしい学科だと信じています。





“働く”を学ぶ 仕事と社会を考える

keyword
01

社会を映す「鏡」を持つ

定着した「仕事」のあり方には、経済事情だけでなく、その国の歴史や文化が反映されています。「仕事」を見つめることを通して、日本社会の実相に迫ります。

keyword
02

グローバルな視点から、日本の企業社会を考える

海外に展開する企業経営の課題を考える。国際比較を通じて、互いの違いを「発見」する。産業関係学科の学びでは、グローバルな視点からの学習を重視しています。

keyword
03

「働き方」をデザインする

女性活躍やワーク・ライフ・バランスなど、日本では「働き方改革」が大きな社会課題となっています。「働き方」をデザインする。創造的な学びを重視しています。



Class introduction 代表的な授業



産業関係実習Ⅰ・Ⅱ

春学期は世界の雇用・労働事情について各国研究の第一人者を、また、秋学期には日本の雇用・労働事情について最前線で活躍されている人事部門や労働組合の実務家をお招きし、お話を伺った上でグループワークとプレゼンテーションを行います。

准教授 樋口 純平

Curriculum 4年間の学び

1年次

- 入学式・新入生歓迎会
- 導入教育
(ファーストイヤーセミナー)

2年次

- プレゼミ
(産業関係学文献演習)
- 専門科目の履修開始
(産業関係論等)

3年次

- ゼミ(産業関係学演習)開始
- ゼミ対抗
「学生研究報告会」

4年次

- ゼミ(産業関係学演習)
- 卒業論文
- 卒業式

※変更になる可能性があります。

教員の紹介



「働きたい」と思えるような 職場環境をどのように構築するか

現代社会において、多くの人々は雇用関係の中で生活を営んでいます。産業関係学科では、このような労働と雇用を中心に社会と組織を理解し、その理論と実践を学んでいます。私が担当する「労務管理論」では、労働者が能力を発揮できる職場づくりと、組織の持続的発展を支える理論と実践を学びます。採用や配置、教育訓練から、公正な賃金、適正な労働時間、雇用と解雇、福利厚生、安全管理、労使交渉や労働争議への対応まで、労働者の生活に直結する幅広いテーマを扱います。私は特に、労働現場における差別や不合理をどのようになくしていくか、また、より多くの人々が「働きたい」と思える職場環境をどのように構築できるかという問いに対して、労働組合をはじめとする労使の行動に注目し、研究を行っています。

労働と雇用をめぐる課題は、私たちの生活と社会の未来を形づくる重要なテーマです。皆さんもぜひ一緒に学び、一緒に考えていきましょう。

助教 朴 峻喜

Graduation thesis

卒業論文テーマ(一部紹介)

- 主夫家庭の抱える葛藤について
- 子どもの貧困における発生と連鎖のメカニズム
ー就労と教育の観点からの分析ー
- スポーツから考えるリーダーシップ論
- 女性の人材育成を阻む人事制度
ーなぜ女性はキャリア形成できないのかー
- 中小企業のこれからー後継者問題を考えるー
- 共働き社会の少子化対策

Student's Voice

就職内定者からのメッセージ

私たちの未来予想図



KDDI(株)内定 4年次生 若林 徹

目の前の当たり前を疑い、新しい答えを見出したい

産業関係学科では雇用と労働について探求し、「自分を自覚し、自分のために生きる」ことが身につきます。授業では男女間賃金格差や長時間労働などの社会問題について、根底にある原則から紐解き、経営者やソーシャルワーカーといった現場で奮闘される方々から生の声を聞く機会が多く設けられています。また、「働く」をあらゆる角度から思考し、「社会の一員としての自分を自覚した上で、どのように生きるか」について、教員・学生間でディスカッションもできます。こうした学科での

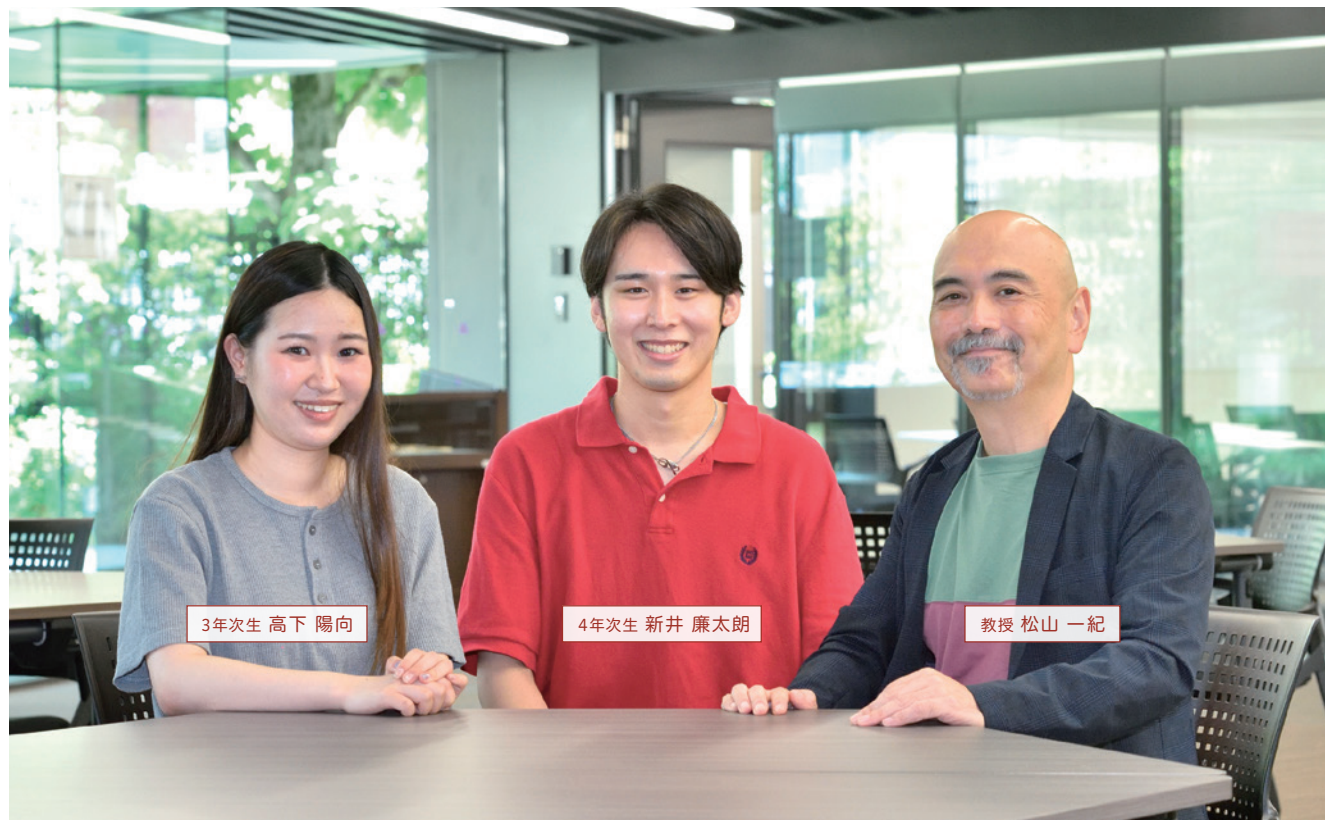
学びを通じて、日本における雇用の現実を理解し、どのように向き合っていくべきなのか仮説が立てられます。そのため、産業関係学科の学生は仮説を検証するかのよう、前向きに就職活動に取り組んでいたのが印象的でした。私は日本の労働市場に合わせたジョブ型雇用制度を導入していること、スタートアップとの協業スタイルに惹かれ、就職先を決定しました。今後も産業関係学科での学びを検証しながら、事業の共創によって「新しい答え」を世の中に生み出していきたいです。

主な就職実績

- 名古屋市
- 岡三証券(株)
- 積水化学工業(株)
- 国税専門官
- SMBC 日興証券(株)
- ソニー損害保険(株)
- TOTO(株)
- 西日本旅客鉄道(株)
- 東海旅客鉄道(株)
- 第一生命保険(株)
- 日本電気(株)
- 裁判所職員(一般職・裁判所事務官)
- 東京海上日動火災保険(株)
- (株)村田製作所
- (株)ローソン

「雇用」と「労働」を体系的に研究し、社会に活きる実践力を身につける

“働く”を学びの中心に据え、座学、実習、アルバイトを含む学生生活すべてをキャリア形成につなげます。



3年次生 高下 陽向

4年次生 新井 廉太郎

教授 松山 一紀

レポートやゼミを通じて自ら考える力を磨く

松山 お二人は、なぜ産業関係学科を選んだのですか。

新井 高校生の頃は、将来の仕事や大学で学びたいことが定まっていませんでした。そこで、「働くとは何か」という根本的な問いから学んでみたいと思い、学部・学科探しをする中で出会ったのが産業関係学科です。「働く」を学ぼう。」というコンセプトに強く惹かれました。

松山 社会は人が働くことで成り立ち、発展します。産業関係学科では「雇用」「労働」を学問的に探究します。新井さんの動機は、まさに本学科の理念そのものですね。

高下 私は経済学や経営学、心理学など幅広い分野に関心がありました。それらを横断的に学べるのが産業関係学科だと知り、入学を決めました。

松山 本学科には、心理学、経済学、法学、統計解析など多彩な専門領域の教員が在籍しています。それぞれの立場から“働く”を研究し、その成果を教育に反映しています。高下さんのように複数の分野に関心をもつ学生にとって、知的好奇心を大いに満たせる環境です。お二人は、これまでに印象に残った授業はありますか。

新井 入学直後の「FYS（ファーストイヤーセミナー）」です。知り合ったばかりの仲間と図書館に通い、1～2週間かけて複数の文献を1つのレジュメに要約しました。皆の前でプレゼンテーションを行い、「自分は大学生になったんだ」と意識を切り替えるきっかけになりました。

高下 私の FYS は講義を聞いて感想を述べる形式でした。先生との質疑応答では自分なりに解釈し、疑問点を先生に伝えました。先生が初歩的な質問にも丁寧に答えてくださったおかげで、わからないことを放置せずに考える姿勢が身についたと思います。

松山 ゼミについても聞きましょう。私のゼミでは「フォロワーシップ」、つまり組織においてリーダーを支え、主体的に貢献するプロセスを研究します。このゼミを選んだのはなぜですか。

高下 2年次に受講した松山先生の「組織行動学」がとても面白かったからです。ある映画を題材に、組織と所属する人の行動を考察し、リーダーシップについて学習しました。

松山 「フォロワーシップ」を学ぶには、「リーダーシップ」の理解が前提となります。その映画には、リーダー不要論を含む3種類の考え方が登場します。娯楽映画であると同時に、リーダーシップを学ぶ優れたケーススタディとして選んだんです。

高下 映画で描かれる人間模様を通じて「自分はこの組織に従うだろう」「こうすればモチベーションが上がるはず」と考えました。ゼミで本格的にフォロワーシップを学ぶ前に、リーダーシップの基盤を楽しみながら理解することができました。

新井 私は、将来につながるスキル習得を重視しました。努力が成果に直結すると考え、統計的アプローチにも挑戦しました。難しかったですが、学生同士で教え合う環境の中で学びを深めました。

松山 統計解析を含む多くの授業で、SA（チューデント・アシスタント）が活躍しています。新井さんは高下さんの学年の SA として頼もしい存在です。教員による講義を SA が支える仕組みは、同志社大学の強みのひとつですね。

フォロワーシップをはじめとする組織行動の本質を探る

松山 新井さんは、ゼミで「学生がアルバイトを続ける理由」を研究しましたね。どのような手法で調査を進めましたか。

新井 先行研究をもとに質問項目を設計し、SNS を使ったアンケートを実施しました。同志社大学と他大学の学生約 200 名分の回答が集まりました。

松山 主要要因は「時給の高さ」と予想していましたね。結果はどうでしたか。

新井 最大の理由は「職場環境」とわかって驚きました。考えてみれば、私は飲食店でアルバイトをしています。社員の方と気軽に話せる居心地の良さが気に入っているから長く続けているのだと改めて気づきました。

高下 私も飲食店や塾講師など複数のアルバイトを経験しましたが、従業員が長く定着する職場と、そうでない職場があります。新井さんの調査結果に納得しました。

松山 アルバイトは一時的な労働とみなされがちですが、組織の一員として所属し、働く点では、企業等の従業員と変わりありません。調査によって、学生自身が自覚していなかった動機を明らかにできたことは、学問的にも価値ある成果です。

高下 松山ゼミを志望したもう一つの理由は、企業見学です。私は「実体験を通じた学び」を大切にしているので、地域密着型の食品メーカー A 社を訪問するのが今から楽しみです。

松山 A 社は「年輪経営」と呼ばれる手法を導入し、持続的な成長を実現しています。学術的にも注目され、研究対象として高い関心を集めている企業です。高下さん、準備の進み具合はいかがですか。

高下 インターネットでの情報収集に加え、先生が紹介してくださった研究者の文献を活用しています。A 社の事業内容、社風、新規事業には慎重な姿勢を取る点、人事面では地元採用や女性の活躍推進を重視していることを把握しました。長期的な成長を支える要因を探りたい一方で、私が従業員だったらどう感じるのか確かめたいこともあります。

松山 社長との対話の場を設けていますから、率直な疑問を投げかけてみるとよいでしょう。若手社員との座談会は、現場の声を吸収するチャンスですよ。

新井 私も SA として同行します。企業を訪問して現場の雰囲気を感じられるのは貴重な機会です。

松山 私は教員としてフォロワーシップを教える立場であると同時に、学生と一緒にさらに深く学びたいと思っています。A 社がいかにフォロワーシップを機能させているのか、その背後にある「フォロワーシップ行動」を学生と共に探り、学術的な視点から検討できることを楽しみにしています。

学生の自主性を尊重し、社会で生き抜く力を形成する

松山 ゼミは学生主体で運営されています。企業見学などの学外活動も積極的に取り入れ、多彩な実践の場を提供しています。お二人とも、これまでの学びを通して大きく成長しましたね。

高下 課題やレポートは、内容はもちろん、締切に間に合わせるスケジュール管理能力も問われますから、大いに鍛えられたと思います。本学科は少人数クラスが多く、先生に相談しやすいので、一つひとつ理解を深めることができました。進路は模索中ですが、まずは企業見学を成功させ、研究結果を年明けのゼミ対抗の報告会で発表して上位を勝ち取りたいです。

新井 「学生がアルバイトを続ける理由」の研究のときも、テーマが与えられた後は、設計から集計まで自分たちで進めました。仲間と議論を重ねる過程が大きな学びになったと思います。

松山 私たち教員は、学生が迷ったときや困ったときには全力で支えます。しかし、学生が自ら考え、行動する経験こそが真の成長につながります。新井さんは就職活動も自力で頑張り、成功しましたね。

新井 本学科のテーマである「働く」を学ぼう。」に即した授業と、ゼミでの学びが就活に活かされました。企業研究では「成果主義かプロセス重視か」といった組織の姿勢を見極め、採用担当者の視点を理解したことで面接にも自信を持ってました。結果、挑戦を歓迎する社風の企業に内定しました。学生は、手厚いサポートを望む人もいれば、私のように自ら動くことを好む人もいます。同志社は学生一人ひとりの意思を尊重する大学なので、学業も就活も安心してのびのびと取り組みました。

松山 学生が持ち前の力を発揮する背景には、それぞれの過去の経験をバネにしている面もあります。学生との会話でわかったことなのですが、中高生時代に生徒会や部活動という組織でリーダーを務めたものの、うまくいかなかった経験を抱えている学生が多いのです。そうした経験をフォロワーシップの学びによって振り返り、学問として昇華する姿に出会えるのは、教員としての大きな喜びです。

高下 私はレポートにアルバイトで得た経験を反映させることがあります。生活費や趣味の資金のために働く場が学びの材料になるのは驚きであり、うれしいことでもあります。

新井 以前、アルバイトで感じた疑問を先生に相談し、解決できたことがあります。働く場面での違和感を放置せず、行動につなげる力が養われました。「働く」を学んだ経験は、キャリアを描く上でかけがえのない財産になりました。

松山 産業関係学科は“働く”を探究し、その知見を社会や学生自身のキャリア形成に還元する学びの場です。そして、実体験を学びに結びつけられることが本学科の魅力です。ここで培った力を糧に、自らの可能性をさらに広げていくことを期待しています。





教育文化学科

グローバル社会に必要な教育とは？
多様な文化に適応した教育のあり方を探求keyword
01

学際的な学び (Interdisciplinary Learning)
哲学・歴史学・社会学・心理学などの専門科目の学習を通じて、文化と人間形成を多角的に理解する力を養成していきます。

keyword
02

体験的な学び (Experience-Based Learning)
海外留学やボランティア活動など様々なフィールドで実体験を積み、調査分析能力や問題解決能力を身につけ、自由で主体的な学びを促進します。

keyword
03

技能的な学び (Skill-Based Learning)
多様な教員・学生と共同しながら学習や研究に取り組んでいく過程で、社会において通用する7つの技能(ポータブルスキル)を身につけていきます。



Class introduction

代表的な授業



冒険教育実習

近年の調査では日本の若者の冒険心は低くなっています。冒険教育実習では、EBL(体験型教育)方法に基づき、キャンプ・山登り・自転車ツーリング等で、冒険における人間形成の可能性を探ります。

准教授 ウィリアム スティーブンソン



Curriculum

4年間の学び

1年次

- 入学式・新入生歓迎会
- 導入教育
(ファーストイヤーセミナー)

2年次

- プレゼミ
(基礎演習)
- 専門科目の履修開始

3年次

- ゼミ(教育文化学演習)開始
- フィールドワーク、
文献講読など専門研究

4年次

- 卒業論文・卒業研究
- 卒業式

※変更になる可能性があります。



Basic information

基本情報

目指すことができる資格

- 中学校教諭一種(社会)
- 高等学校教諭一種(地理歴史)
- 高等学校教諭一種(公民)
- 図書館司書
- 学校図書館司書教諭
- 博物館学芸員

入学定員

79名

過去の留学実績(派遣留学)

- リーズ大学(イギリス)
- 復旦大学(中国)
- ウェスタンミシガン大学(アメリカ)
- ロンドン大学(イギリス)
- ハワイ大学・マノア校(アメリカ)
- ユタ大学(アメリカ)
- ウーロンゴン大学(オーストラリア)
- 延世大学(韓国)
- 高麗大学(韓国)
- エディンバラ大学(イギリス)
- オスロ大学(ノルウェー)
- イースタン・フィンランド大学(フィンランド)



Graduation thesis

卒業論文テーマ(一部紹介)

- 教材のデザインと子供たち
ーイラストが教材の情報伝達に与える影響についての考察ー
- 歌と祈りによる人間形成ー聖歌隊活動の教育的意義ー
- イギリスにおけるコーヒーハウスとその機能から考えるコミュニティ
- 大学への進学動機と学習成果・教育効果の関連
- Clothes and ESD
- フィンランドの教育文化にみる「豊かに生きる」ための学び

Student's Voice



就職内定者からのメッセージ

私たちの未来予想図



(株)JPホールディングス内定 4年次生 森 の子

平和で豊かな共生社会の実現に貢献したい

幼い頃から多様な価値観や文化的背景を持つ人と関わる中で、どうすれば人々が国籍や言語、文化の違いを互いに尊重して生きていけるのかを知りたいと考え、教育文化学科に入学。受講した「異文化体験実習」では日系カナダ人コミュニティでフィールドワーク、高校時代の留学先であるアイスランドを再訪した際には保育園でボランティア活動に励みました。学生一人ひとりの興味・関心と、自由な学びのスタイルを大切にする本学科で、「教育とは何か」を追究し、1年次から

外国にルーツをもつ子どもたちを支援したほか、ベビーシッターのアルバイトなど、常に学びを実践に移してきました。その中で、子どもたちが大きな力を内に秘めていて、ペースは違っても自分なりに芽を出そうとしていることに気づき、『人生の基盤が形成される大切な子ども時代に携わる』という軸を持ち就職活動しました。内定先は、日本全国で保育園を運営し、子育てを包括的に支援してきた企業。今後も子どもたちの笑顔が溢れる社会をつくるために挑戦していきたいです。

主な就職実績

- 東京都教員
- アサヒ飲料(株)
- 小林製薬(株)
- 東海旅客鉄道(株)
- 大阪府
- (株)南都銀行
- マツダ(株)
- 明治安田生命保険相互会社
- 国家公務員(総合職)文部科学省
- 奈良テレビ放送(株)
- 日本アイ・ビー・エム(株)
- (株)ジェイアール東海ソアーズ
- (株)村田製作所
- 第一三共(株)
- ダイハツ工業(株)
- 刑務官

興味・関心の軸をたくさん持つ人の、好奇心に応える学びがある

多様な興味・関心を抱く学生が集まる教育文化学科。好奇心旺盛な学生たちがそれぞれの学びを広げています。



自分の意見以外も真に理解し、人間性を高める学びの場

奥井 皆さんはなぜ教育文化学科を選んだのですか？

萬谷 私は教育文化学科の Web サイトを見て、タイやカナダで学ぶなど在校生の皆さんの充実した体験教育の様子を見て直感的に「ここで学びたい」と思いました。

玉利 私も直感です（笑）。オープンキャンパスで奥井先生の「言語教育文化論」の授業を受け、言葉は文字以外にも身振り手振りで伝える手段があると教えていただき、自分の中の想いを言語化された気がしました。

奥井 そうだったんですね。瀬崎さんは 4 年次生ですが、教育について深く掘り下げて学ぶ強い意思が最初からありましたね。

瀬崎 高校時代に、学校での授業の方法や教員のあり方などに関心を持ち、教育学を志望分野にしたのですが、教員養成の学びを求めているわけではなく、その点、教育文化学科は学校教育だけでなく文化、人間形成に関わる場・事象の全てを学べる点が魅力的だなと。

奥井 教育学系の学部・学科は日本にたくさんありますが、大抵が教員養成を目的としていて、学校教育以外の学びを教育学でやる学部・学科ってほとんどないですよ。

崔 ユニークな学科ですよね。私は教育文化学科の教員ですが、教育学出身ではないんです。萬谷さんと玉利さんも、学校教育とは違う研究をされていますよね。

萬谷 はい。私は高校時代にアフリカのタンザニアに行って、マサイ族と出会い、彼らのことを今後ゼミや授業でディスカッションを通して伝えることで、自分自身の疑問を発見に変えたいと思うようになりました。

玉利 私はゼミのフィールドワーク先に蚤の市を選びました。他にも、酒蔵を研究している人など、みんな様々な研究テーマを持っています。

瀬崎 私は教育学を学ぶと決めて入学したので、みんなが様々な興味・関心の軸を持っていることに驚きました。

奥井 そうですね。皆さんが印象的だった教育文化学科の科目はありますか？

瀬崎 私は、1 年次のファーストイヤーセミナーで、様々な文献を読んでディスカッションしたことが印象に残っています。

崔 フィクション、ノンフィクション含め、様々な文献にふれ、教育学に限らず様々なテーマで、自分と世界とのつながりを考えていく授業ですね。

玉利 ファーストイヤーセミナーは私もすごく印象的です。ディスカッションを通して、自分が当たり前と思うことが、他の人は全然違ったりして。日常生活でも、人の考えを尊重しつつ動くようになりました。

奥井 ファーストイヤーセミナーは日本の大学では珍しい取り組みです。様々な文献を読み、ディスカッションで様々な意見を取り入れて、自分をアップデートさせる作業です。ただ、議論が噛み合うまで時間はかかるんですけどね。

瀬崎 振り返るとすごくいい経験でした。自分自身を耕して、4 年間の学びの基盤を築くことができました。

萬谷 ファーストイヤーセミナーの中で、私はロールプレイングのディスカッションが印象に残っています。文献を読んだあと、4 つのチームで立場を分けてディベートするのですが、自分で立場を選ばず、自分の意見と違うチームの一員になることもあるんですね。おかげで、人の気持ちや考えを想像して理解する訓練ができました。

玉利 文献の中の、物語の登場人物になりきらないと議論が進まなくて苦労しました。でも回数を重ねることで発言力、発信力を高められたと思います。

高等教育、アフリカ・マサイ族、想いの継承、それぞれのフィールド

瀬崎 私は 2 年次に受講した「比較教育文化論」で高等教育分野について学び、自分の研究フィールドにすることにしました。今は「大学生の授業における学習行動」というテーマで卒業論文に取り組み、大学生を対象にしたアンケート調査中です。得られた結果から、大学教育の授業改善にも活かしてもらえそうな、知見を生み出したいです。

奥井 瀬崎さんの研究は私も関心があります。熱心に学ぶ学生だけではなく、モチベーションが高まり切らない学生も対象にしているところが、現実的だなと。

崔 教員と学生って意思疎通しきれない部分もあるので、私も興味深いです。

萬谷 今は卒業論文の前段階で、フィールドワークに取り組んでいます。アフリカのマサイ族の子育てをテーマにしようと思っていたのですが、コロナ禍で海外への渡航が難しくなり、今は、「馬と共存できる社会」にテーマを変更し、与那国島へのフィールドワークを計画しています。

玉利 なぜ、馬を研究フィールドにしたの？

萬谷 子どもの頃から馬術をしていたから、馬に癒されることが多かったんです（笑）。与那国島にはずっと昔から土着の馬がいて、人と馬のパートナーシップがあったので、私が馬に癒されたようにホースセラピー的なものがあるのでは

ないかと考えています。与那国島の方へのアプローチは、2 年次に受講した「基礎演習」で兒島明先生から学んだインタビュー法を使ってアプローチしようと思っています。私と玉利さんは同じ奥井先生のゼミと一緒に学んでいます。玉利さんは「記憶の継承」という研究の軸を持っているんですよ。

玉利 はい。私は沖縄出身ということもあって、戦争体験者の声の保存や平和教育に興味を持っていたんです。でも、大学生になり、東日本大震災の被災者の声を聞いたことで、人の想いやモノを繋いでいきたいと思う気持ちが強くなりました。教育以外でもそうしたことを伝えていく手段があると思い、骨董品など誰かの想いが詰まった、古い物を扱う蚤の市のフィールドワークをするようになったんです。

瀬崎 二人の研究フィールドも面白いですね。教育文化学科は、色々な考えや知見を持つ人が集まるので、刺激的です。

玉利 本当ですよね。あと私、「記憶の継承」の一環として、博物館学芸員課程を履修し、博物館教育や資料保存論についても学んでいるんです。博物館には継承すべき物が集まっていますから。

奥井 教育文化学科の学生も博物館学芸員資格取得を目指せますしね。

学生も教員も多種多様でユニーク。想いを育て未来へ

崔 教育文化学科は、教員も多種多様なんですよね。私自身も国際関係の歴史を専門として、朝鮮学校の研究をしてきました。社会学とも教育学とも少し違う立場からモノを見ている感じはあります。学生も教員も様々な研究をされていますよね。

奥井 そうですね。学生も教員も、それぞれ色々な軸を持って学びを広げている学科です。教員に興味があるけど教員養成の学びだけでは物足りないとか、日本のことに興味があるけど海外にも目を向けたいとか、みんな一人で複数の軸を持っている印象があります。だから今高校生で、一つのことだけではなく、様々なことに興味・関心があるという人には、おすすめの学科だと思います。

瀬崎 そうですね。私も、教育文化学科で広く学べて良かったと思っています。もうすぐ卒業なので、せっかくだからこの機会に皆さんに聞きたいのですが、大学に入ってから伸びる学生ってどんな人だと思いますか？

崔 素直な人かな。知らないことを「知らない」と素直に捉えられる人のほうが知的欲求も高まって、自分の興味・関心に出会えるのだと思います。

玉利 私は、自分の勉強法を見つけた人が伸びるというか、自分の道に突き進んでいくんだろうなと思います。

萬谷 私はわくわくすることに素直で、自分らしい冒険を学びに変えられる人が、伸びる人だと考えます。瀬崎さんご自身はどうですか？

瀬崎 授業でも、ゼミでも、何か活動するときに自分が知らないことでも、自分の人生に役立つと考えて前のめりになれる感覚がある人が伸びる人かなと思います。そしてそういう人が、教育文化学科に向いていると思います。

奥井 そうですね。卒業後については、皆さんどうお考えですか？

瀬崎 はい。私は、ゼミの山田礼子先生からたくさんアドバイスをいただき、希望する大学院で高等教育分野の研究を深めることになりました。大学院修了後は、高等教育分野の研究者である大学教員になりたいと思っています。

そう思うようになったのも、奥井先生が楽しく授業をされている姿を見たからなんです。

奥井 ありがとうございます。嬉しいです。

萬谷 私は高校時代に辛い想いを経験したことから、誰もが自分自身を好きだと言える社会を作りたいという夢があり、そんな働きかけができる道を探っています。

玉利 私は想いを継承する、誰かに届けるという行為を基盤としていける仕事ができたらいいなと思っています。博物館学芸員として働く道もあると思いますが、「継承」していくには様々なアプローチ方法があると思うので、私も模索中です。

奥井 3 人とも自分なりの想いがあり、この学科を選び学んで来られたので、将来きっとユニークで納得できる道に進むと思っています。でも迷ったり悩んだりしているときは、背中を押す役割を担うのが我々教員だと思っているので、いつでも話をしにきてください。

玉利 励みになります。ありがとうございます。



就職活動体験記

(株)カヤック内定
社会学科4年次生 福山 空

信頼できる仲間と 乗り切った就職活動、 情報を正しく取捨選択

ずっと関心があった広告業界を志望。広告業界の就職活動に関する本、広告に携わる方の本、広告クリエイター講座、短期・長期インターンシップ、OB訪問等、様々な方法で情報を得て、取捨選択と自己分析を行いました。コロナ禍により、企業の説明会や面接はオンラインが増えていきました。オンラインでは、移動時間が不要で日程調整がしやすい反面、オンラインでコミュニケーションをとることの難しさを感じましたが、広告業界を目指す仲間と連絡を取り、練習を重ねて、克服しました。就職活動に関する情報が溢れていますが、自分にとって、どの情報が必要かを正しく取捨選択することが大切です。また悩みを共有して相談できる仲間がいたことは心強かったです。



One Point!

オンラインでの就職活動を乗り切るためのアイデアを考え、SNSで発信する活動をしていました。反響があったアイデアもあり、就職活動もポジティブに行えました！



新たな学びの空間



自習スペース

新町キャンパス臨光館3階の一角に自習スペースがあります。自習スペースは、周囲の視線や音を遮断し、1人で集中できる快適な学修空間です。レポート作成等に活用されています。

新創館アカデミックプラザ

新創館の1階には、主体的な学びを活性化させるアカデミックプラザがあります。大小のスクリーンと可動式の椅子・テーブルにより、イベント・セミナー、ワークショップ、アクティブラーニング等、フレキシブルな学びの空間を創出します。



社会学部生の日 school life



一人暮らし

社会福祉学科2年次生 高橋 尚也

小学生の時に怪我をして長期入院し、院内学級をはじめ多くの人たちに助けられた経験から、私自身も誰かの役に立ちたいと思い社会福祉学科に入学しました。現在は地域福祉について勉強しながら、キャンパス近くの学生マンションで充実した日々を送っています。コロナ禍ではオンライン授業が多く、新しい友人も作りにくいですが、高校が同じ友人やサッカーサークルの友人と支えあっているのが寂しく感じることはありません。学生生活を充実させるためには、大学のイベントやボランティア活動等にも積極的に参加し、自分に合うものを探すことも大切なことだと思います。今は、社会福祉士の国家試験合格に向けた勉強も頑張っています。



一日のスケジュール

8:00	9:00	12:15	13:10	18:30	22:00	23:00	1:30
起床・家事	講義受講	ランチ	講義受講	アルバイト活動	帰宅・家事	授業の予習・復習等	就寝

実家暮らし

産業関係学科4年次生 中野 亜夢

女性の働き方に興味があり、産業関係学科に入学。現在は日本型雇用慣行について卒業論文作成に取り組んでいます。1時間程度かかる通学時間は、課題レポート作成や参考文献を読む時間に充てています。課外活動では2年次から本学の留学生ピアサポーターを務め、コロナ禍以前は京都の観光案内、コロナ禍以降ではオンラインで日本語会話の練習相手をしていました。留学生が帰国する際に「あなたに会えてよかった」と言われてとてもうれしかったです。実家暮らしのためレストランのアルバイトの時間も取りやすく、幅広い年齢の方と関わり、社会勉強にもなっています。



一日のスケジュール

7:00	8:00	9:00	12:15	13:10	17:00	22:00	23:00	24:00
起床	通学	講義受講	ランチ	講義受講	アルバイト	帰宅	課題レポートの作成	就寝



■ 学問領域の幅を広げる 副専攻

社会学部には副専攻制度があります。

自分が所属する学科以外の他の4学科を副専攻とすることもでき、横断的副専攻と呼ばれる「ジェンダー」「社会心理」「国際社会」「サイエンスコミュニケーター養成」を副専攻とすることもできます。

👤 ジェンダー

皆さんは、自分が「女」または「男」と、あたりまえのように思っていますか?「オネエキャラ」のメディアでの活躍にみるように、女/男の区別は、実は流動的なものです。家庭的な男性もいれば、仕事にむく女性もいます。「ジェンダー」(社会的・文化的性)論は、女らしさ、男らしさ、とは何かを問いかけます。性別の固定観念をこえて、人としての多様性と自由を追究したいー「ジェンダー」副専攻はそんなあなたのための学びです。

🌐 国際社会

「国際社会」の語は、大学生の本分である知的挑戦を軽視し、やみくもに海外滞在(旅行・ボランティア)や英語習得(資格・語学留学)といった経験を絶対化するために用いられることも多いです。それでも本副専攻は「国際社会」の名を掲げています。なぜなら、社会を専門に研究してきた本社会学部だからこそ、「国際社会」に対し、体験談や資格へと逃げ込むのではなく、知的に真っ向勝負できるだけのリソースを用意しているからです。

🧠 社会心理

マスメディアやインターネットのコミュニケーションは、人間が社会的な生き物として、どのように他者の心理を理解し、自分の考えを伝え、コミュニケーションのネットワークの中で生きているかを学ぶことで理解が深まります。インターネットの発達集団や異文化理解の社会心理学の重要性を高めましたし、マスメディアの影響の心理学は広告や政治の理解にも欠かせません。「社会心理」の副専攻はこうしたことを中心に研究を進めます。

🔬 サイエンスコミュニケーター養成

サイエンスコミュニケーター養成副専攻は、文系理系を問わず参加する学部学生を対象に、科学分野で起こる社会問題を正しく読み解き、解説できる人材を養成する学部横断型副専攻です。このような人材は、企業を含め広く社会から求められています。この副専攻を履修することで、社会問題につながる科学技術分野、中でも健康と環境に関わる分野の基礎理解と評価力を習得することができます。研究倫理や科学リテラシーを履修した学生は、今後社会のあらゆる分野において活躍が期待されます。

少人数教育

社会学部では少人数のクラスで勉強する「ゼミ(演習)」と呼ばれる授業があり、学生や先生と親しく接することができます。それは大学生生活の支えとなり、社会に出てからもそのネットワークに助けられることでしょう。



総合大学ならではのメリット

14学部からなる総合大学のメリットの1つとして、他学部の講義の多くを社会学部の学生も受講することができます。所属学科に軸足を置きつつ、様々な学部に関心ある講義を履修してみたいかでしょうか。



奨学金制度・サポート体制の充実

同志社大学には学資支援の体制が整っており、在学生のおよそ3割が何らかの奨学金を受給しています。また、保健センターやカウンセリングセンター、生協食堂も完備。安心して学生生活を送ることができます。



入試情報

試験方法	社会学科	社会福祉学科	メディア学科	産業関係学科	教育文化学科
一般選抜入学試験	○	○	○	○	○
大学入学共通テストを利用する入学試験	○	○	○	○	○
自己推薦(スポーツ)入学試験	—	○	○	○	—
社会福祉学科推薦選抜入学試験	—	○	—	—	—
教育文化学科自己推薦入学試験	—	—	—	—	○
外国人留学生入学試験	○	○	○	○	○

■ 一般選抜入学試験

学力検査を中心とした選抜方法です。「全学部日程(文系)」と「学部個別日程」合わせて最大2回の受験が可能です。

■ 大学入学共通テストを利用する入学試験

大学入学共通テストの出題教科・科目のうち、各学科が指定する教科・科目についての成績により選抜します。
※学科によっては、大学入学共通テストの成績に加えて個別学力検査を実施します。
大学HPから入試情報をご確認ください。

■ 自己推薦(スポーツ)入学試験

高等学校在学中に学業とスポーツ活動とを両立させた実績を持ち、同時に、入学後も学修意欲を常に持ちながら、体育会に加盟している部でスポーツ活動を継続できる強い意志と能力を持つ者を対象に選抜します。

■ 社会福祉学科推薦選抜入学試験

高等学校在学中に福祉を学び、あるいはボランティア活動・福祉活動・その他社会活動等を継続して行い、あるいはキリスト教徒で、入学を強く希望する者を対象に選抜します。

■ 教育文化学科自己推薦入学試験

これまで主体性をもって「教育と文化」に関するグローバル／ローカルな活動を積極的に行い、今後もそのような活動を継続する意志を持ち、入学を強く希望する者を対象に選抜します。

■ 外国人留学生入学試験

これまで外国での学校教育を通じて培われた基礎学力等を備え、学ぶ意欲を持つ優れた外国人留学生を選抜します。

■ その他

- 一般指定校推薦入学試験 ● 「キリスト教主義学校連携ネットワーク」推薦入学試験 ● 上海日本人学校高等部推薦入学試験
 - 同志社国際学院国際部推薦入学試験 ● 法人内諸学校推薦入学試験
- ※対象の高等学校から推薦された者が受験できる入学試験です。一般の受験生は受験できません。

入試情報は変更になる場合がありますので、詳細は、『入学試験要項』『同志社大学入試ガイド』、本学ウェブサイトなどをご参照ください。

■ 学部入試情報サイト
<https://gakubunyushi.doshisha.ac.jp>

■ 外国人留学生の場合
<https://intad.doshisha.ac.jp/>

※本パンフレットに掲載されている教員・学生等の情報は取材時のものです。

社会学部・社会学研究科ホームページ

<https://ss.doshisha.ac.jp/ss/index.html>

各学科のオリジナルサイトもこちらからご覧いただけます。



社会学部紹介動画

<https://youtu.be/qmuKe0W9gtQ>

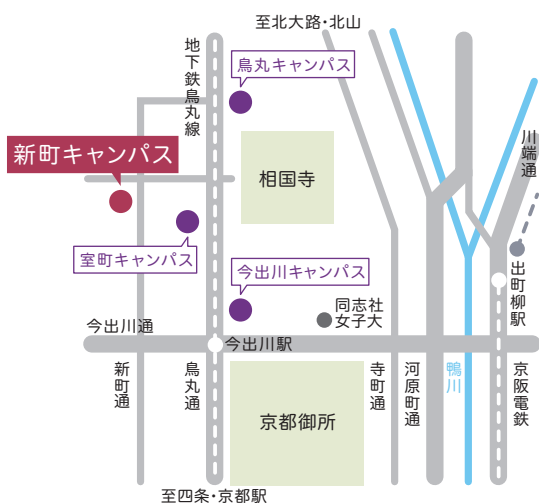


社会学研究科パンフレット

https://tnpservers.com/doshisha_sociology/



アクセスマップ



社会学部に関するお問い合わせ

社会学部・社会学研究科事務室

TEL:075-251-3411 FAX:075-251-3031

E-Mail:ji-shajm@mail.doshisha.ac.jp

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル 臨光館1F



同志社大学
Doshisha University

<https://www.doshisha.ac.jp/>